

## 価値創造の軌跡

更新日：2022/11/15

### ■ 沿革から見る価値創造の軌跡

第三創業期を迎え、  
日本・アジアから世界をリードするAIテックカンパニーへ

---

### 私たちの強み

日本最強アセット

→ 詳細へ

グループ  
ユニークネス

→ 詳細へ

成長を支える  
財務基盤

→ 詳細へ

人財の強化

→ 詳細へ

持続可能な  
社会の構築

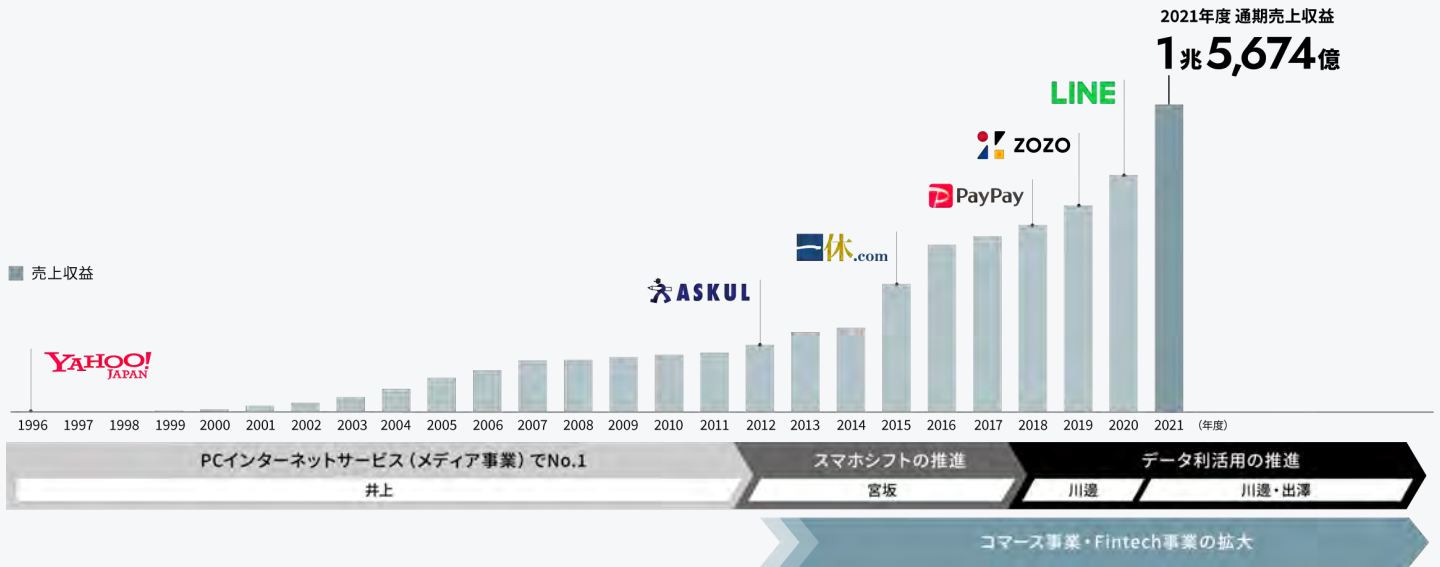
→ 詳細へ

# Z HOLDINGS

# LINE

## ↓ Zホールディングスの軌跡

## ↓ LINEの軌跡



## → PMIの進捗とグループシナジー

<b>1996年1月</b> ↓ ヤフー(株)設立	<b>2012年度</b> ↓ 新執行体制へ移行	<b>2018年度</b> 新執行体制へ移行	<b>2019年度</b> ↓ 持株会社化・商号変更	<b>2020年度</b> ↓ LINE(株)との経営統合完了
<b>1996年度</b> Yahoo! JAPAN サービス開始	<b>2001年度</b> Yahoo! BB サービス開始	<b>2008年度</b> Yahoo! JAPAN アプリiOS版リリース	<b>2011年度</b> Yahoo! JAPAN アプリAndroid版リリース	<b>2021年度</b> Yahoo! ディ스플레이広告プラットフォーム統合
<b>1999年度</b> Yahoo!ショッピング開始	<b>2013年度</b> ↓ eコマース新戦略発表	<b>2015年度</b> アスクル(株)、(株)一休連結化	<b>2019年度</b> (株)ZOZO連結化	
<b>戦略事業</b>	<b>2015年度</b> Yahoo! JAPAN カード提供開始	<b>2018年度</b> ↓ PayPay 提供開始	<b>2019年度</b> Zフィナンシャル(株)設立	

1996年1月

## ヤフー（株）設立

国内初の商用検索サイト「Yahoo! JAPAN」のサービスを開始。インターネットの普及とともに、変化する利用者のニーズに的確に応えられるよう、生活のあらゆる場面で利用される「ライフエンジン」となることを目指してサービスの拡充・向上に努めてきた。



2012年度

## 新執行体制へ移行

スマートフォンの急激な利用拡大など、インターネット利用環境の急速な変化に対応するため、1996年以来継続してきた経営体制を刷新。経営陣の若返りを図るとともに、新たな執行体制へ移行。



2013年度

## eコマース新戦略発表

「Yahoo!ショッピング」のストア出店料と売上ロイヤルティを完全無料化し、手数料モデルから広告収入モデルへの転換を発表。「ヤフオク!」でもストア出店料の無料化を決定。



2018年度

## PayPay提供開始

ソフトバンク（株）との共同出資によりPayPay（株）を設立。大規模なキャンペーン等が奏功し、利用者・加盟店舗の急拡大に成功。国内のキャッシュレス推進の中心的な役割を担い、国内QR・バーコード決済市場で圧倒的な地位を確立。



## 2019 年度

### 持株会社体制へ移行し、 商号をZホールディングスへ変更

変化の激しいインターネット業界において、さらなる事業領域の拡大と企業価値の最大化を実現していくにあたり、柔軟かつ機動的な意思決定と経営資源の最適配分が行え、より迅速な事業戦略の推進を可能にする持株会社体制へ移行し、商号をZホールディングスへ変更。

# Z HOLDINGS

## 2020 年度

### LINEとの経営統合完了

国内で200超のサービスを提供する日本最大級のインターネットサービス企業グループが誕生。LINEの大規模な利用者基盤を活かし、各事業でシナジーを創出することで、当社グループにしか創れない未来を力強く創造していく。



## 2021 年度

### 新生Zホールディングス始動

グループシナジーを生かし既存のサービスを深化、アップデート。各領域で、経営統合の効果を最大化するための連携が着実に進む。メディア事業では、Yahoo!広告からLINE NEWS面への広告配信を開始。コマース事業では、「Yahoo!ショッピング」「PayPayモール」※ストアへのLINE公式アカウントの導入促進や、ヤフー・出前館・アスクルとの協働による「Yahoo!マート by ASKUL」も拡大。戦略事業では、PayPayとLINE Payの国内QRコード決済事業の統合や、「PayPayあと払い」の提供開始。

※：2022年10月12日をもって「Yahoo!ショッピング」に統合されました



# Z HOLDINGS

# LINE

## ↓ Zホールディングスの軌跡

## ↓ LINEの軌跡



# LINEは、24時間365日生活のすべてを支える ライフプラットフォームへと進化を続けてきました

---

人と人を近づけるメッセージングアプリとしてスタートしたLINEは、次第にサービスの幅を広げ、人・情報・サービス等あらゆるものをつなぐスマートポータルとして、ユーザーの生活をより便利にしてきました。当初はスタンプやゲームといったコンテンツ事業が売上収益の柱でしたが、現在は、主要4カ国・地域で1億7,600万人のユーザー（2022年3月末時点）をベースとする広告事業が事業の柱となっています。今後は、決済・銀行・証券・ローンなどの金融事業の拡大を目指していきます。